

任せいただきたいということです。思いは一つ、同じだと思います。

○浅野敏明議長 2番、勝見英一朗議員。

○2番 勝見英一朗議員 これで終わりにしますが、この学力のところを見ていきますと、長井市でまずどうなっているのということを最初に聞いてからその次に行かなきゃいけないですよ。それだけ一手遅いわけです。だとしたら、現実はどうなっているのだけれども、なぜこういうことが起こるんですか。そしてこういうふうになっているのだけれども、こういうふうになったほうがいいんじゃないですかと質問できれば一番いいわけなのですが、その一つ手前のことからやらなきゃいけないということを今回特に感じました。白書でなくても結構ですけども、あくまでも実態が分かるということをぜひ取り組んでいただきたいと思います。

以上で質問を終わります。

内谷邦彦議員の質問

○浅野敏明議長 次に、順位2番、議席番号7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 おはようございます。政新長井の内谷邦彦です。

防災及び今後の観光事業について伺います。明確な回答をよろしく願いいたします。

最初に、防災について伺います。

防災に関しては、9月本会議でも多くの議員が質問されておりますが、今回、産業・建設常任委員会にて熊本県益城町に行政視察を行い、熊本地震からの復興について説明を受けた際、長井市の対応はどのようになっているのかという疑問がありましたので、確認をさせていただきます。

益城町は熊本県の中央北寄り、熊本市の東

隣に接する人口約3万3,000人の町です。町の東部から南部にかけて九州山地系に連続する山が連なり、北部一帯は益城台地と称される畑地が開け、中央には水田と都市近郊の住宅地が広がっています。益城町には熊本の空の玄関である阿蘇くまもと空港、陸の玄関口である益城熊本空港インターチェンジなどの交通拠点やグランメッセ熊本などの交流拠点を有しています。町全域が熊本都市圏の都市計画区域となっており、震災前の人口は3万4,999人、世帯数1万3,455世帯、震災前までは人口増加傾向でしたが、震災後減少、現在の人口は3万2,676人、世帯数は1万935世帯となっております。

益城町で震災直後の問題として職員参集状況の未把握などがあり、初動対応の遅れにつながってしまった。職員は集まっているが、点呼を取ることができなく、指示、指令が出せない状況であった。緊急時の職員出勤の把握方法の検討をする必要性を強く感じたとの話がありましたが、長井市の場合、どのように行うことを想定しているのかを総務参事に伺います。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 お答えいたします。

職員の初動マニュアルに従いまして、地震が発生したら長井市の震度を確認いたしまして、職員は速やかに、自主的に各自の勤務先、職場にまず参集いたします。避難所担当職員については、職場でなくて避難所にすぐ行く形になります。また、職員参集メールによりまして職員に伝達いたしまして、職員の安否も含め参集状況を確認するとともに、参集してから各班の班長、これは職場長となりますけれども、班別に確認、点検を行いまして、総務班へ報告いたします。なお、総務班長については、総合政策課長が就いていますが、総合政策課長のほうで取りまとめを行います。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 そうなると、集まってき

た人が一々点呼を取って、来たかどうかを確認するという考え方なのですか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 参集の状況によって、職員の例えば大地震であれば安否の状況もございませぬので、出勤した職員を各職場のほうでその時点で確認して、所属長のほうで参集した職員を把握して、総務課に連絡をして、総務課で全体を取りまとめるというような状況でございます。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 要するに集まってきました。それで点呼取りました。報告するのが要するに人づてに全部行くという形になるんですか、それともある程度何かの媒体を使って行くという考え方ですか、全部人なのですか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 システムとかは入ってませぬので、人手で、手動でする形になります。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 あと避難所ありますよね。避難所に来たか来ないか、要するに来れなかった人がいるのかいないのか、そういった把握はどうやってなさるのですか。要するに役所に防災本部ができたとして、各避難所の職員の配置関係はどのようにして把握するのですか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 避難所の対応につきましては、対策本部で職員が詰めておりますので、対策本部と、あと各避難所にまず電話が通じれば電話で確認いたしますし、あとは電話不通であれば無線を使って、それぞれ全ての避難所を確認する形になります。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 じゃあ、各避難所に無線連絡、要するにそういった一般的な媒体を使わなくても全部点呼が取れる状況がそろっているという考え方よろしいんですか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 議員のおっしゃるとおりでございます。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 次にも通じるんですけども、各種通信手段やSNSが使えない場合の対応を検討する必要性を強く感じたという話が益城町の説明の際にありましたけども、長井市の場合、今の話ですと無線があるということですので、そういった形で対応するという考え方よろしいんですか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 基本的に職員は自主的に市役所の本庁舎、あと各避難所や各コミュニティセンターのほうに参集することになりますが、各地区のコミュニティセンターにつきましては、通信手段としてデジタルMCA無線等を設置しておりますので、そちら19局設置しております。また、避難所開設時の通信手段といたしましては、担当職員へ配付いたします防災行政無線、こちら41台設置しております。そちらで災害時の連絡手段としております。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 あと役所のほうに職員が集まってくるとした場合に、何%の人間が集まってくるという考え方の検討はなさっていらっしゃいますか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 地震の規模にもよりますので、一概にどれぐらいか想定しておりませんが、休日とか時間外であれば7割、8割ぐらいは参集できるかなと考えております。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 検討という場合は基本的に最悪な状況を考えるべきだろうと思いますので、7割、8割が集まればかなりだなと思えますけども、実際問題、市で考えている防災計画を実行するとした場合に、何%の職員が、最低ですよ、最低何%の職員が来ないとやれないと

というような検討はなさっていらっしゃいますか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 具体的にその何%の職員でできるかというところはちょっと詳しいところは想定しておりませんが、初動マニュアル等々、あと各計画で人員を各班配置していますので、ある程度職員は来られない状況を見越しながら計画のほうは策定した状況でございます。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 基本的に私、聞きたいのは、要するに最悪の状況を考えて、最低何%の職員が必要だと。このためには、じゃあ、何をしなきゃなんないかということまで私自身としては検討すべきだろうなど。だから基本的にこういった防災とかなんとか、最悪の状況を机上でもいいから計算するという状況が非常に大事だと思うのですが、その辺の考え方というのはないということなんでしょうか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 そこまで具体的なところで精査しておりませんので、今後の検討課題とさせていただきますと思います。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 ぜひその辺も併せて検討いただきたいと思います。

あと、益城町では職員に事前通告なしに緊急招集をかけていると。要するに11月の防災訓練ありましたよね、あれの場合だと、こういうふうにしますって全部ストーリーがあるじゃないですか。だけど、要するに地震の場合だといつ起こるか分かんないじゃないですか、基本的には、今起こるかもしれない。そうした場合には、どういふような体制でも集まってこれるような要するに職員に意識づけをするために、益城町では事前通告なしに緊急招集かけるらしいんですけど、そういったことは長井市ではやってないですよ。今後そういったことをやるような意図というのはありますか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 職員の初動マニュアルにおきまして、例えば第1次配備であれば震度4のときは各班の部門の参事級であったり、例えば第3次配備であれば震度5強の場合は震度を見ながら各職員が自主的に出勤するような形を取っていますので、特に訓練という形じゃなくて、まず職員が各自判断して自主的に震度を確認しながら出勤する形になっています。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 要するに職員の意識づけのために益城町では緊急招集をかけて、いかなる場合でも集まる体制をつくっているということらしいんですけど、そういったことは長井市ではやっていらっしゃらないようなので、現実的に被災された地域ではそこまでやっていかないとなかなかやっぱり難しいと考えてこういうことをやっていらっしゃると思うんですけど、そういったことを検討する余地もないという考え方ですか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 今後具体的には検討してまいります。総合防災訓練のときに全職員に対しまして参集メールの送信を行いまして、安否の確認と参集できるかどうかの確認は取っております。あと8月3日、4日の水害のときについても、各職員のほうが自主的に被害状況、大雨の状況を確認しながら出勤できておりますので、当然訓練も必要ですけども、現状としても職員のほうが十分認識して参集している状況はございます。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 地震の場合、突発という形になりますので、そういったことを考えると、意識づけとしてはいついかなる場合でも呼び出されることがあるんだということを意識づけることは非常に重要だと思いますので、その辺もやっぱり併せて検討いただきたいと思っております。

で、よろしくをお願いします。

あと、地震などで今回、長井市の場合、野川、白川、最上川という橋、川に挟まれているわけですね。そうした場合、その橋が通行止めとなった場合の職員体制というのは検討なされているのかどうかを伺います。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 まず、防災拠点、市役所ですけども、市役所のほうに参集可能と想定される部分については中央地区の職員、平野地区の職員、あと豊田地区の白川左岸の職員を中心に庁舎に集まってもらって災害対策本部体制を確立しながら情報収集や業務分担を行っていく形になるかと思えます。市役所のほうに参集できない職員につきましては、各地区のコミュニティセンターへ参集いたしまして、災害対策本部と連携し、指示の下、情報収集や災害対応に当たると想定しております。また、状況に応じまして、退職者等への応援の依頼等もすぐに対応できるような体制の整備を行っていきたくと考えております。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 その中で白川なんですけど、コミュニティセンターって川の向こう側ですよ。白川、要するに豊田地区を考えた場合、白川あってコミュニティセンターも中、要するに市内のほうに入っちゃうんですよね。市内に入っちゃうと、じゃあ、どこを拠点にすると、豊田小学校が拠点になるのですか。その辺決めていらっしゃいますか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 やっぱ豊田地区については川の向こうになってしまいますので、豊田小学校を拠点として考えると思えます。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 ぜひその辺もきちっと検討なされて、その辺の場所もきちっとされないと、やはりどこに集まる、コミュニティセンタ

ーまで超えて橋通れないんですけど、どうするんですかってなっちゃう。

あと、命令体系というのはどういった形の命令体系になっているのか、その辺も決められていらっしゃると思いますか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 今想定していない部分については早急にシミュレーションしながら確認していきたいと思えますし、あと命令系統につきましても、各班に班長いますので、班長を中心に指示、命令に行くような形になっています。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 ぜひその辺、机上で結構ですので、検討していただきたいと思えます。

あと、避難所の人数把握についてどのタイミングで報告、報告の方法は何種類か検討しているのか、その辺はいかがでしょうか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 避難所につきましては、避難所の開設業務マニュアルにおいて整理しておりますが、まず1時間置きに地区、行政区単位ごとの避難者の数、あと世帯数をまとめまして災害対策本部のほうに報告をいたします。

報告の方法につきましては、電話、あと電話混んだときはメール等を使いますが、先ほど質問あったとおり、その手段が遮断される可能性もありますので、防災行政無線等を使って報告をすることになるかと思えます。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 あと、上水道が使えなくなった場合の対応についてはどのように考えていらっしゃるのかを伺います。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 飲用水の確保につきましては、大規模災害時の山形県市町村広域相互応援に関する協定がございます。あとは福島・宮城・山形の広域圏災害時相互応援協定等々の各協定や山形県知事を通じまして自衛隊に災害派

遣要請を行いまして対応してまいります。

また、水道施設の復旧のほうでございますが、日本水道協会山形県支部で定めます水道施設の災害に伴う相互応援計画等に基づきまして、構成団体で相互応援活動によりまして迅速な応急復旧を行ってまいります。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 上水道を使えなくなった。私個人の考え方なんですけども、市内6地区で井戸水を使用している家庭ってあると思うのですよ。だからその井戸水の水質検査をして、要するに飲料水として使用できるところをやっぱり水道が断水したときにはその水を使えるような体制を取るとか、あと市内で消雪で利用している井戸ありますよね。そういった井戸を利用すると飲料水では確かに使えないかもしれないんですけど、ほかの用途としてその水が使えるんじゃないかと。その水を使うためにどうするかと、そういった検討というのはなされてないと思うんで、できるのかどうなのか、その辺はいかがでしょうか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 今、議員からありました内容につきまして、まだ検討したことはありませんので、担当部署に相談してみたいと思います。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 利用できるものを全て利用する体制はぜひ取っていただきたいと思います。だから日常生活ができなくなる部分になりますので、じゃあ、いかに早く日常生活を取り戻させるかという形になると、やっぱりこういった要するに電気、水という部分が非常に大切な部分になってくると思いますので、この辺は併せて検討いただければと思います。

あと、益城町では度重なる余震で屋内での避難をちゅうちょし、青空避難や車中避難が多く、避難者の人数確認が困難という話がありました。長井市の場合でも当然同様のことが起きる可能

性は高いと思いますが、その辺に關しての対応は検討されていますか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 避難所以外への避難者を行政で把握についてはかなり難しいかなと思ってるところでございます。各地区のコミュニティセンターを中心に屋外の拡声装置によりまして周知や避難状況を取りまとめていただくなど関係団体の協力がなければこのような情報を把握することはできないと考えております。今後、各地区のコミュニティセンターの方々と協議を重ねながら、地域の情報収集にご協力いただくようお願いしながら、避難者数を把握する方法なども検討していただいて、避難者の方々が適切な支援物資等を受けられるような連携を図っていきたくと思います。

あと、将来的には各地区のコミュニティセンターにつきましては、防災の機能を設置する等の対応を検討していきたくと考えておりますので、今後そういったところをコミュニティセンターと協議して検討してまいりたいと思います。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 あと、車中避難する市民に駐車場を指定するというのもやっぱり考えていく必要があると思うんですけども、その辺に關してはどのように考えるのかと、場所等何かあるのかどうかはいかがでしょうか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 災害時につきましては、交通渋滞や二次災害を防ぐために基本的に徒歩による避難を原則としておりますが、ただし高齢者等徒歩による避難が困難な方もいらっしゃいますので、車で避難された方の駐車場の確保については各避難所のほうで一定数は確保しているところでございます。

なお、熊本地震、益城町のような状況につきましては、ほぼ全ての住民が避難者になったということと、地震の恐怖、余震の多さで車中避

難が特に多かったということでお聞きしておりますので、そのような大規模な地震災害においては、屋外に広大なスペースが必要になってきますので、置賜生涯学習プラザの総合運動公園であったり、各小・中学校のグラウンドを使用させていただくようなことも想定しているところでございます。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 その辺も併せて検討して周知していただけるとありがたいなと思います。

あと、益城町では、地震の際の経験から、段ボールなどのパーティション等の仕切りより新型コロナウイルス感染症の問題やプライベート空間を確保するためにはテントが最適として、テントを使用することに決めているようですが、長井市の対応では、今、段ボール等ベッドであったりパーティションというのはそろえていらっしゃると思うんですけど、現実問題として、先進地というか、被災された地域では、段ボールなどよりもテントのほうが非常に重要だと考えていらっしゃるようなんですけど、その辺に関してはいかがでしょうか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 大規模な災害によりまして、避難が長期化する場合につきましては、仮設住宅を建設し入居いただくような形なるかと思えます。

また、8月の豪雨災害の教訓から、避難所での新型コロナウイルス感染症対策のために隔離して使用できるスペースの確認を現在はしているところでございます。段ボールのパーティションのほか、議員からありましたプライベート空間の確保、新型コロナウイルス感染症対策の観点からもテントが大変有効と考えております。簡易テントの整備をするとともに、今、包括連携協定を締結しております株式会社モンベルのほうから中型テントの購入を進めているところでございます。これにつきましては、避難所で

の滞在日数を考慮しながら、今後その状況に応じて使っていきたいと思います。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 ぜひやはりその辺先進地の例を做ってその辺も併せて検討いただきたいと思います。

あと、健常者以外の方々の避難所、福祉避難所についてはどのような対応を考えているのか、避難所を指定して集中的に対応することもやっぱり検討する必要があると思うんですけど、その辺に関してはいかがでしょうか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 そういった福祉避難所につきましては、避難所での生活に支障があると認められる要援護者を受け入れていただくため、医療機関はじめ、市内15か所の福祉施設等と協定を取り交わしているところでございます。健康班によります健康相談、保健指導を実施いたしまして、避難者の状況に応じた福祉施設を選定し、現在受入れの調整を行っているところでございます。

また、避難行動要支援制度におきましても、個別避難計画の策定に取り組んでおりまして、将来的にスムーズな調整が可能になるように現在取り組んでいるところでございます。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 これ益城町の例なんですけど、そういった福祉避難所にも一般の避難者が押し寄せてきて、福祉の方の対応ができなくなったという話もあったんですよ。そういったことというのは想定されていらっしゃいますか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 今までそういったことは想定しておりませんでした。議員から熊本の視察の報告書を見せていただいて、そういった課題があることは今回分かりましたので、今後検討してまいりたいと思います。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 ぜひやっぱり様々な方がいらっしやいますのでそれに対応する施策が非常に重要だと思いますから、その辺も併せて検討していただきたいと思います。

あと、福祉避難所で想定した場合に、そこで使用する備品、介護用品であったり衛生用品や洋式のポータブルトイレなどの備蓄についてはどのように考えていらっしやいますか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 福祉避難所で使用する介護用品等の備蓄はしていませんが、まずは各施設のほうで購入しております物品を使用させていただきたいと考えております。その後、日用品であったり資材等の協力団体に支援を依頼いたしまして、優先的に提供を受け、届き次第配付していきたいと考えております。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 介護用品であったり衛生用品、健常者以外の方が使うものに関しては、やはりどのぐらいの人数いるかというのは当然分かっているわけですから、その部分、当初、二、三日分だけはぜひ備蓄していただきたいと個人的には思います。やはりうちが被災していなければ持ち出せるのでしょうか、自宅が被災した場合はそういったもの一切持ち出せなくて、身一つで来られる方も出てくると思います。これしか使えないとか、これがないと駄目だという人が出てくる可能性もありますので、健常者であれば何とでもなるのでしょうか、やはり健常者以外の方というのはそれでない駄目だという方がいらっしやると思いますので、その辺の要するに要望であったり、そういったものも聞き取って、その辺も備蓄品の中に何点か入れていただきたいと思うのですが、その辺の検討はいかがでしょうか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 今ご提案いただいた内容につきましても、検討してまいりたいと思います。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 よろしくお願ひします。

あと、災害発生時ですね、各地から支援品が入ってくるのが予想されますけども、支援品の受入れや配付の体制については検討なさっていらっしやいますか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 長井市の地域防災計画におきまして、物資の拠点といたしましては、置賜生涯学習プラザ、市民文化会館、あと野川まなび館を指定しているところがございます。商工班によりまして、運営責任者を設置いたしまして、搬入されます物資、支援物資等を受け入れるとともに、避難所への配付を行っていきたいと思います。また、自主防災組織や各地区のコミュニティセンター、災害ボランティアや輸送関係の協定団体の協力を得ながら配付体制も整えてまいりたいと思います。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 支援品というのは基本的に1か所にどんと集めて、そこから配るという形になると思うのですが、そういった体制というのは要するに、でも、今、市民文化会館であったり何か所か分かれると、物によって分けるのか、それとも来た順に分けていくのか、そこまで想定なさっていらっしやいますか。やっぱり物をどこにどういうふう置くか、配置するか、そういったことも検討していかないと、実際配付する側、やる側の人間、非常に大変だと思うんですよ。そうした場合に、水はここに行けばいいって、食料品はここに行けばいいという形できちっと取っていかないと難しいんじゃないんですかと。だからその辺も併せて、文化会館であれば当然飲料水はここに全部集まるような手配をしますであったり、食料品であったらこの場所に全部集まるような手配をしますという考え方でいったほうがいいんじゃないかと思う。その辺はいかがなのですか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 まず、拠点としては、置賜生涯学習プラザを拠点に全てそこで行くのかなと思います。そこがいっぱいになったときに市民文化会館であったり、まなび館はちょっと遠くなっていますので、市民文化会館になると思いますけども、あくまで拠点のほうは置賜生涯学習プラザを中心に組んでいきたいと考えております。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 置賜生涯学習プラザって避難所になっていませんでしたっけ。そこに人が集まる、支援品が集まるってことにならないですか。そういったことも考えていらっしゃいますか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 避難所にもなっていますので、災害の規模にもよると思いますが、その辺は実際にシミュレーションしながら検討してまいりたいと思います。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 やはり何度も言う最悪の状況を見て、じゃあ、置賜生涯学習プラザにその地域の平野地区の人間がどんとどれだけ集まってくるのかというのは大体人数数えると分かっちゃいますよね。そうした場合に、じゃあ、この場所とこの場所は全部使われるなど思った場合に、じゃあ、この場所は空けましょうとかって、要するにそこまでやっていかないとなかなか難しいでしょうね。そこら辺の検討というのは今後していただけるのでしょうか。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 はい、今後検討してまいりたいと思います。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 この項の最後、市長に伺います。あと、市の防災訓練については、非常時の手順確認の観点からは非常に有効だと思っ

ております。あと、突発的な対応についての準備としてはできてないのではないかなと個人的に考えます。やっぱり突発的に起こる災害の可能性もあり、そのときの職員の行動はどうあるべきか、あと災害発生時、最悪な状況についても机上の計算であっても検討すべきだと思いますが、市長の考えを伺います。

○浅野敏明議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

内谷邦彦議員から熊本地震の対応等々について、益城町にご視察に行かれたということで、レポートも私、読ませていただきまして、やっぱり我々知らないことをいろいろ研修なさってきたなど。それを受けての私どもに対する提言ということでございますが、たしか熊本の地震も私ども長井盆地西縁断層帯、非常に厳しい活断層があるわけでございますけれども、たしか熊本はマグニチュード7.4が今後30年以内に0.8%ぐらいの確率だったはずなのですね。長井の場合はマグニチュード7.7ぐらいでたしか2.0%ぐらいの確率、ですから、私どものほうが高いです。でも、熊本で起きて、ほかにも例えばまだ起きてないという言い方をしたほうがいいのかもかもしれませんけれども、首都圏直下とか東海、東南海、こちらのほうも非常に高いわけですよ。もう数十%、30%、40%と言われているから、ですから、どこでいつこういった地震が起こるか分からないということで備えをしなきゃいけないというわけでございますが、私どもの例えば行政の備えはどうなっているか。非常に厳しいご指摘もいただきましたけれども、例えば最近一番大きい地震は阪神淡路大震災ですよ。あれは27年前。その起きた後、国のほうから様々な改正があって、それぞれの地方自治体もきちんと対応しなさいよということの条例改正等々が求められました。その後、新潟沖、特に中部沖地震とかありましたよね。そのときもありました。

そのときどんなことを長井市がしてきたかという、それなりに改正しているだけなのです。もう絵に描いた餅以下です。全く用をなさないような国からそう来たから直せばいいだろうと。したがって、私ども驚愕したのは、やっぱり東日本大震災でああいう災害を受けて、我々としてはあのときは執務時間中だったものですから、すぐ被害状況とかいろいろなことを対応できたわけですけども、今回の熊本地震もそうですし阪神淡路大震災なんかもそうですし、全く朝方早くとか、そういうときなんですね。そのときの対応というのは、極めて難しいと思います。それを例えば計画で書いていても、そんなもの何の役にも立たないというのは、職員自体が被災するわけですから、もしかしたら亡くなるかもしれない。

ですから、そういう意味でいえば、やはりどこかの時点で私どもも計画をつくっていかなくちゃいけないんでしょうけど、マニュアルとかね。今もある程度マニュアルあります。ただ、それも多分実際発災して被災した場合は全く役立たないということでしょうから、ご質問、ご提言のことで申し上げれば、やはり議員おっしゃるように、机上であっても最悪の状況を検討して情報がある程度我々も一人一人共有しながら、その対応について心がけをきちんとやること、持つことということと、それなりのマニュアルを作る。そのために、今、年に一回、地区別に総合防災訓練やっているわけなんですけど、災害の種別ごとの訓練も毎年1回程度はそれとは別にする必要があると考えているところです。

やはり益城町でもそうだったとレポートなんかでもありましたけれども、例えば私どもの場合ですと消防の職員がいますよね、西置賜消防本部に。こういった職員には無線で連絡するんですよ。でも、職員一人一人に無線を預けて、何かあったら非番招集ですぐ来いとはなかなか手当の関係もありますしね、一般職にはそうい

ったことはそう簡単にはできないと思っています。したがって、どんな対応したらいいかというのは正直なところこれから検討しなきゃいけないと思っていますが、ただ、内谷議員からは11項目、私で12項目でございますから、いろいろご質問ございましたけれども、やはりほとんどが今の段階ですとその場になってみないと分かんない。しかも発災した時間とか曜日とかによってその対応は当然違うと。

あとは、ただ一つ言えることは、今あらゆる災害を想定した総合的な計画、それとマニュアルはありまして、この間の8月のような長井市としては一番危険性が、被災する可能性が高いと推定される水害、これらについてはそれなりの対応ができています。ただ、地震は多分この地域で東日本大震災みたいな、あるいは阪神淡路大震災の直下型の地震なんていうのは体験した例がないですよ、何百年、もしかしたら何千年ないかもしれない。その備えを今からやれというのは、なかなか我々行政だけではどうしようもない。したがって、市民の皆様も含めた自主防災組織とか、あるいは最後は隣近所ですよ、特に地震なんて一気にぼんと来るわけですから。そのときにどういふふうにして自分の命を守り家族の命を守り、周りの人たちが助け合うかというところを日頃やっぱりしっかりと合意形成、そして訓練をしておく必要があるということだと思っています。

したがって、繰り返しになりますが、ぜひこういった研修、視察をされたときは、私どもにもいろいろご助言、あるいはご提言などをいただき、そして私どもも当然地震が一番怖いので、そういった備えとしての防災訓練、これから毎年になるか、テーマごとに毎年毎年何らかの防災訓練は必須だと思っていますが、そういったところを今後心がけてまいりますので、よろしくご指導いただきたいと思います。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 市長から答弁いただきました。あらゆることを想定することは非常に重要なことだと個人的には考えます。あと、被災された地域には様々なノウハウが蓄積されていると思いますので、被災後の問題点や検討すべき課題については十分にリサーチして長井市の対応に生かすべきだろうと思いますし、物事をなす際には段取りが非常に重要で、段取り八分という言葉もあり、様々な危険性に対して対応すべく検討し、やっぱり机上であっても検討できることは検討し、想定外という言葉ができない、要するに基本的には想定内の範囲で終わらせていただければ非常に被害が少なく市民の安全性も守れるんじゃないかと思いますので、その辺よろしくお願ひしたいと思います。

次に、今後の観光事業について伺います。

最初に、8月3日からの豪雨被害により中断されておりましたダム関連の観光事業について伺います。

長井ダムながい百秋湖のカヌーやゴムボートツアーが再開されたことは、秋の観光シーズンでの大きな収穫となったと思いますけども、遊覧船などの観光についての復旧はどのようになっているのか、また、来シーズンに向けどのように対応することとしているのか、産業参事に伺います。

○浅野敏明議長 赤間茂樹産業参事。

○赤間茂樹産業参事 お答えいたします。

8月3日から4日にかけての豪雨によりまして、本市では水陸両用バスと遊覧船で利用している特に折草沢、また三淵溪谷へのボートツーリングを行っている合地沢でも土砂の流出がありまして、使用不能になったところでございます。特に折草沢は沢に下りる道路、そして沢水を流している暗渠、また駐車場が全部流されるという甚大な被害を受けております。その結果、8月4日以降の水陸両用バスと10月に予定しておりました遊覧船事業全て中止とさせて

いただいたところです。

この災害を受けまして、すぐに国土交通大臣に対しまして公明党を通じて災害復旧の迅速な対応を要望させていただいたところでございます。また、本市がお世話になっている水辺空間のオープン化は、国土交通省東北地方整備局最上川ダム統管理事務所で管轄していらっしゃいますので、そちらの所長さんのほうにも要望をさせていただいたところでございます。

その結果、国土交通省には迅速な対応をしていただいております。合地沢につきましては流出した土砂の撤去が完了し、三淵へのボートツーリングは9月16日から開始できました。無事に11月13日まで運行することができたところでございます。大きな被害となった折草沢につきましては、現在も急ピッチで対応をいただいております。流入した土砂の撤去、それからダム湖への進入路の本格的な復旧工事を現在行っているというところでございます。国のほうでは今後も工事の進捗について情報交換しながら運行の計画を立ててまいりたいと思っておりますが、来年度の水陸両用バスの運行期間、運行時期につきましては、例年どおり営業が可能なように、今のほうに頑張らせていただいているというところでございます。

これにつきましては以上でございます。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 ぜひ例年どおり行えるように交渉のほうと、あと確認のほうをよろしくお願ひしたいと思います。

あと、この時期になるとススキやセイタカアワダチソウなどの雑草が生い茂り、景観を邪魔しているところが多々見られると。除草についての考え方を教えてください。特に道路脇など、観光地として目指すのであれば、低層の雑草であれば目立たないと思うんですけど、どうしても背が高くなると非常に目立ってしまい、県道

や国道ののり面についても、県や国に要望しても対応いただけない場合どうするのか、その辺も併せて教えていただければと思いますので、よろしくお願いします。

○浅野敏明議長 赤間茂樹産業参事。

○赤間茂樹産業参事 観光事業と市内の景観、特に景観環境というのは非常に密接な関係があるということは議員のおっしゃるとおりだと認識しております。例えば国、県が管理しているといいますと、河川の堤防などになりますけれども、水まつりなどにつきましては、河川敷を国から占用させていただきまして、河川緑地公園などの草刈りなどを事業に連携して行っておりますけれども、基本的には河川管理者につきましては、洪水のおそれのある時期に前もって整備していくというのが基本でありまして、必ずしも長井市で行う観光事業と時期を合わせるということは難しいところでございます。この場合、祭り時期につきましては、状況によりましては建設業者さんとか、それからボランティア、そして長井市で直接ということもありますけれども、草刈り等を行って実施しているところでございます。

あと、ダムのオープン化に伴いまして、やまがたアルカディア観光局が水辺空間の使用を自由にさせていただいているところでございますが、こちらについてはちょっと今まで環境整備のほうまで手が回っていなかったということで、こちらは今後検討していかなければならないなと改めて思ったところでございます。

これまでも国や県に整備時期や整備箇所の相談は行ってきて観光事業を実施しておりますけれども、かなうかどうかは別として、今後とも引き続き両者と相談をしながら事業をやっていきなりたいと思います。

あと、もう一つ言えることなのですが、やっぱり市民の皆さんの景観意識というのが大変重要だなと感じております。例えばの話です

が、野川の右岸地区では、地域の住民が県からアダプト事業を受けまして、堤防の除草を行っております。左岸部につきましても一斉に河川環境の整備などを行っていただいておりますし、この地区以外でも、例えば今泉などでもそうだと思いますが、地区一斉に環境整備ということを行っていただいております。それから道路沿いですが、これは長井市で進めている花いっぱいのみちづくり事業、こちらのほうに参加していただいているところが様々なところで花を植栽して維持していただいておりますけれども、特に中央地区の方々につきましては、あやめ公園、つつじ公園の花の時期に気を配っていただきまして、観光客が通る道路沿いの手入れを行っていただいております。こういった市民の皆様の日頃の景観意識の醸成、これを向上させることが観光振興を進める上では必要だなと感じておりまして、そのような方面からも今後波及するように声かけをしていきたいなと考えているところでございます。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 なかなか難しいことだと思いますけど、ススキとかセイタカアワダチソウに関しては、刈らないとその次の年、えらいことになっちゃうという話ですから、やはり継続というのは力になるだろうと思いますので、その辺も併せてぜひ検討いただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

あと、次に移りますが、新型コロナウイルス感染症の問題で、様々なイベントが中止になっていましたけれども、徐々に再開されてきております。また、海外からの観光客についても様々な規制が解除され、戻ってきておりますけど、新型コロナウイルス感染症が発生する前にインバウンドでの観光客を呼び込むという話をかなりされておりまして、今後の観光事業についての展望や目標について教えてください。

○浅野敏明議長 赤間茂樹産業参事。

○赤間茂樹産業参事 インバウンドにつきまして、令和2年の春に大規模な台湾からの旅行者を招く計画を立てておりましたけども、残念ながらその春に新型コロナウイルス感染症が蔓延してできなかったとなっております。今年、日本政府が10月11日に邦人個人旅行を解禁したということに加えまして、円安であるということも受け、全国的に外国人の訪日旅行が増えている状況でございます。追い風が吹いているという時期だと感じております。

やまがたアルカディア観光局では、11月20日から22日に東北ジャパンネットワーク、これは台湾の旅行会社ですけども、お呼びいたしました、この地域の商品説明及びアドバイスを受けております。これは置賜地域インバウンド促進協議会というのがございまして、こちらと連携して台湾のライオン旅行社に向けた通年旅行商品の営業を行ったものです。この営業の結果につきましては、来年4月からのツアーの実施の働きかけにつながっていくものでございます。

また、年明け2月2日から4日にかけて、山形中央観光株式会社主催のファームツアー、ファームツアーというのは旅行会社を観光地に招聘するというものでございますけども、これを実施いたします。これによりまして、やまがたアルカディア観光局のほうでも現在受入れの対応を行っているところです。この春からできれば通年で呼べるようなツアーを組ませただきまして、特に冬の各種体験事業などを観光局では予定したいとしております。

このほかの旅行会社を通じたということではないんですけども、現在、長井市ではけん玉によるまちづくりを進めておりますが、このたび11月10日に4代目の地域おこし協力隊員、ニック・ギャラガーさんが就任いたしました。これで現在SPiKeには2人のアメリカ人協力隊員がいるということになりますけども、この2

人ともお話ししていますが、彼らも海外のお客様も視野に入れた事業展開をしたいということも言っておりますので、そういったところでもインバウンドのつながりが出るのかなと思っております。期待しているところでございます。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 よろしくお願ひします。

あと、次の質問ですけど、ながい水まつり・最上川花火大会でこれだけの若い人がいるんだというぐらい若い人が集まりました。やっぱりこれから若者を積極的に集めるイベントの開催も可能だと思っておりますし、必要だと思っておりますけども、その辺に関してどのように考えていらっしゃいますか。

○浅野敏明議長 赤間茂樹産業参事。

○赤間茂樹産業参事 確かに水まつりには非常に多くの若者が集まりまして、花火大会というのはやっぱりそういう若者を引きつける力があるのだなと改めて感じているところです。

全国的な若者の集まるイベントなどを見ますと、野外での音楽フェスティバルとか、非常に何万人も集まるようなイベントもございまして。こうした大きなイベントというのは非常に有効だとは思っておりますが、現実的なところなものですけども、こういった大きな若者の集まるイベントを運営する、実行する人のやっぱり熱意、それから相当な人手がかかるということがありまして、これを例えば市とか観光協会とかで行うというのは非常に厳しいところがあるなと思っております。

例えば過去に長井市で行われたこういった催しの一つで、ぼくらの文楽というのがありました。これは実行委員の方々が市の予算を頼らずに参加料だけで実施したイベントでございますけども、こういった手法もそれこそ何万人というイベントではないんですけども、非常に有効な手段であって、こういったやり方もあるなと思っております。

長井市といたしましては、若者に何を期待しているかという、最終的にはまちなかに若者が多くいるまちを目指したいと思っております。この目標に近づける取組としてつながるのではないかなと思っているのは2つほどあります。

1つは、伝統文化、あるいは古い町並みと現代アートの融合ということです。これは実際、今、文教の杜で取組を始めているんですけども、丸大扇屋で今年は若者、現代アーティストの作品展示をいたしました。プラスその展示する作品の創作活動を長井市内で行っていただいたということで、また小桜館のほうにも中学生、高校生の作品の展示会を行ったりしています。こういう取組につきましては、市内の若者にとりましても地元と密着したり、または地元にもこういうところがあるんだなという見直し、それから参加する機運が高まるという効果があると思いますし、その結果だとは思いますが、今年の文教の杜にいらっしゃったお客様については、若者が非常に増えたという報告も受けております。こうした文化芸術、アートをまちなかに融合させる取組というのは、非常に効果がある手法だと考えております。

2つ目は、またけん玉ですけども、特にけん玉もどちらかというと若い世代に人気があるということで、来年は日本けん玉協会主催になりますけども、みちのくけん玉フェスタを長井市で開催するという計画を立てております。やがてはけん玉についてもワールドカップを長井市で開催したいと皆さん頑張っていると思いますので、ぜひそのようにいくように進めてまいりたいと思います。

このほかのアウトドアスポーツなどは特に若者が集まりやすいということで、株式会社モンベルさんと連携して、モンベルが深く関わる事業の一つにSEA TO SUMMITというイベントあるんですけども、これはパドル、バイク、ハイクということで、要は湖の上でカヌ

ーをこいだり、それから自転車で走ったり、最終的には山に登るといようなイベントなのですけども、この開催も長井市内辺りでできないかということで現在調整を進めているところでございます。

このように、全国の若い世代に対して長井市の知名度が上がる取組というものは非常にこれから必要になるのではないかなと思っております。そういったことを進めることによりまして、若者が集まるまちというものに向かっていきたいと考えているところでございます。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 最後の質問、ちょっと飛ばしちゃいますけど、やっぱり併せて女性客もぜひ呼んでいただきたいと思っております。観光客の誘致を積極的に進め、市域経済の活性化が不可欠。また、女性の観光客を市へ誘客することが重要と思っておりますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

以上で私の質問を終わります。

○浅野敏明議長 ここで暫時休憩といたします。再開は午後1時といたします。

午前11時59分 休憩

午後 1時00分 再開

○浅野敏明議長 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

金子豊美議員の質問

○浅野敏明議長 順位3番、議席番号6番、金子豊美議員。